

沖縄県知事 玉城 康裕 様
沖縄県教育委員会教育長 金城 弘昌 様

第 32 軍司令部壕跡の学術調査の実施と保存・公開を求める署名

《要望の趣旨》

昨年 10 月 31 日の首里城焼失のニュースは、大きな衝撃となって列島を覆いました。首里城が琉球王国の歴史と文化の結晶であり、同時に平和を希求する「沖縄のこころ」の象徴であったからに他なりません。

首里城地下には旧日本軍の第 32 軍司令部壕が築かれ、今も埋れたままになっています。壕の総延長は 1,000m 以上と言われており、司令官室や作戦室、通信室、居住区などが設けられていました。牛島満軍司令官のもと、本土防衛のための「出血・持久作戦」がここで練られ、住民の犠牲を増大させた軍の南部撤退が決定されたところです。壕内には 1,000 人余りの将兵・軍属・学徒・慰安婦などが雑居していました。周辺では日本軍による住民虐殺もおきています。沖縄戦は、「軍官民 共生共死」の方針のもとで住民を巻き込んだ凄惨な地上戦闘が行われ、当時の県民の 4 分の 1 に当たる 15 万人の命が奪われるという未曾有の惨禍をもたらしました。司令部壕は、まさにこのような沖縄戦の性格を決定づけた場所です。

司令部壕跡は、沖縄戦の実相を今日に伝える「生き証人」であり、沖縄戦の悲劇を伝える第一級の戦争遺跡です。沖縄県埋蔵文化財センター刊行の『沖縄県の戦争遺跡』（2015 年）においても「その歴史的価値は最も重要なものの一つである」と報告されています。

今、首里城再建に際して司令部壕の保存・公開を求める声や壕内に残された遺骨の収容と遺族への返還を求める声が高まっています。司令部壕跡は、沖縄戦に向き合い、戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、世界に発信する拠点になるものと確信しています。

このような司令部壕跡の歴史的重要性に鑑み以下の事項を要望します。

《要望事項》

1. 司令部壕を沖縄戦の実相を伝える戦争遺跡として史跡等の文化財に指定して下さい。
2. 安全性を確保した上で、計画的に学術的な発掘調査を実施しその成果を公表して下さい。
3. 発掘調査の成果に基づいて、段階的に保存・整備を行い平和学習の場として公開して下さい。

氏 名	住 所

戦争遺跡保存全国ネットワーク

事務局 〒380-0928 長野市若里 3-5-5 きぼうの家 ☎026-228-8415 FAX 026-262-1831

沖縄平和ネットワーク

事務局 〒901-2424 沖縄県中城村南上原 717-1 丸勝マンション 405 ☎090-6860-8682 FAX 098-993-7517